

令和7年度保険者介護保険保険者努力支援交付金(市町村分)評価指標に係る該当状況調査票

目標 I 介護予防/日常生活支援を推進する(配点100点)

47 点

(i)体制・取組指標群(配点52点)

指 標	時 点	回 答 欄	昨 年 度 結 果	得 点	記 載 欄
介護予防・生活支援サービス・一般介護予防事業の実施に当たって、データを活用して課題の把握を行っているか。 ※ウに該当する場合はア又はイのいずれかに、エに該当する場合はウに該当していることが望ましい	ア 介護予防のケアプランや要介護認定の調査票等を確認している	○	○	1 点	ア 介護予防のケアプランや要介護認定の調査票等については、随時確認を行っている。 イ KDBの「地域の全体像の把握」や「健康スコアリング(介護)」の状況を確認し、介護・医療の状況や介護度の変化などを把握し活用している。 ウ KDBのデータや一般介護予防事業の実績、介護サービス保険給付費の推移等を用いて、担当者同士で話し合いを行い、課題を分析している。 エ ウのデータの分析から、地域でのサロン活動が医療費、介護サービス保険給付費、介護予防、認知症予防に有効と考え、各地域におけるサロン活動を広められるよう、令和6年からサロンリーダー育成事業を実施している。
	イ KDBや見える化システム等既存のデータベースやシステムを活用している	○	○	1 点	
	ウ 毎年度、ア又はイのデータを活用して課題の分析・共有を行っている	○	○	2 点	
	エ データに基づく課題分析等の結果を施策の改善・見直し等に活用している	○	×	2 点	
通いの場やボランティア活動その他の介護予防に資する取組の推進を図るため、アウトリーチ等の取組を実施しているか。 ※ア→イ→ウ→エの順で該当していることが望ましい	ア 通いの場への参加促進を図るための課題を把握・分析している	○	○	1 点	ア 地域サロンの開催地区が全地区の半数程度であることから、開催地区を増加させるようサロンリーダー育成事業を令和6年度から開始し、新しくサロンを開催したい地域住民の支援や、高齢者がサロンに参加しやすくなるための工夫の話し合い、サロンでの新しいメニュー開発などを行っている。 イ 「田子町救急医療情報キット」を申請した高齢独居、高齢夫婦、高齢者世帯の、医療や生活状況、介護支援専門員等を把握しており、申請者の中で通いの場に参加していない町民の状況を把握している。また、KDBシステムで特定健診を受けた高齢者のデータを確認し、必要な方には、介護予防事業への参加を促している。 ウ ①地域サロン活動においては、高齢者全員にチラシ等を配布し参加を促していることから、サロンを開催している地域では、サロンリーダーを通じて参加していない方の情報を把握できる。また、民生委員から地域の高齢者の情報収集をしたり、保健師が高齢者の自宅を訪問して参加を促すなど対応している。 ③介護予防事業に参加している町民については「健康ポイントカード」でポイントを付与している。 ④毎年、ポイントカードが満点になった町民については商品を交換し、満点になったカードについて、年齢別、健康に関する目標の自己評価等をデータベース化している。 エ 健康ポイントカードについては、特定健診受診もカードを満点にするための条件であるが、高齢者は早朝からの健診に移動手段の確保ができない等の理由で最初からポイントカードの配布を拒否する高齢者が多い。高齢者の活動意欲を低下させず元気で生活してもらうためにも、介護に特化したポイントカードの導入についても検討が必要と思われる。
	イ 通いの場に参加していない者の健康状態や生活状況、医療や介護サービスの利用状況等を定量的に把握し、データとして整理・分析している	○	○	2 点	
	ウ ア及びイを踏まえ、通いの場を含む介護予防に資する取組に対して、次のような具体的なアプローチを行っている	○	○	1 点	
	① 通いの場に参加していない者の居宅等へのアウトリーチに関する取組	○	○	1 点	
	② 医療機関等が通いの場等への参加を促す仕組みの構築	×	×	0 点	
	③ 介護予防に資する取組やボランティアへの参加に対するポイント付与の実施	○	○	1 点	
④ ③のポイント事業参加者の健康状態等のデータベース化	○	○	1 点		
エ 毎年度、ウの取組の成果を分析し、取組の改善・見直し等を行っている	○	○	2 点		

指 標		時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄	
3	介護予防等と保健事業を一体的に実施しているか。 ※イに該当する場合はアに、エに該当する場合はアからウまでのいずれかに該当していることが望ましい	ア 通いの場における健康チェックや栄養指導・口腔ケア等を実施している	2024年度実施 (予定を含む) の状況を評価	○	○	1点	ア 体温、血圧、体調のチェックは実施しているほか、不定期ではあるが、栄養士による栄養指導や保健師による口腔ケアの指導も取り入れ実施している。年に1回以上は、チェックリストも行っている。 イ 定期的に実施している介護予防事業については、健康チェックで問題があれば、委託業者から業務担当の保健師に連絡が入り、必要な医療機関への受診を早期に促すことができる体制となっている。 ウ 町文化祭で生活習慣病予防と介護予防の展示や健康チェックで一体的に啓発している。一体的実施では、現役世代と75歳以上の高齢者が一緒に参加できる健康教室等も実施している。令和7年度も、ウの内容の事業を実施予定である。 エ 一体化実施では、ハイリスク、ポブレーションアプローチに分けて評価し、令和6年度に向けた改善・見直しを行っている
		イ 通いの場での健康チェック等の結果を踏まえて医療機関等による早期介入（個別支援）につなげる仕組みを構築している		○	○	2点	
		ウ 現役世代の生活習慣病対策と、介護予防とが連携した取組を実施している		○	○	2点	
		エ 毎年度、一体的実施の成果を分析し、取組の改善・見直し等を行っている		○	○	2点	
4	通いの場の参加者の健康状態等の把握・分析により、介護予防・生活支援サービス・一般介護予防事業の内容等の検討を行っているか。 ※ア→イ→オの順で該当していることが望ましい	ア 通いの場の参加者の健康状態等を継続的・定量的に把握する体制が整っている	2024年度実施 (予定を含む) の状況を評価	○	○	1点	ア 参加者の健康チェック結果の報告書、特定健診結果、健康機器（骨量、筋肉量等）での測定結果により、把握している。 イ 年度最後に、実施状況や参加者の改善状況(握力や主観的健康観、後期高齢者の質問票)等を評価・分析している。 ウ 委託業者（NPO法人）等からも実施方法等の意見を聞き、必要な対応や内容の検討を聞いている。 エ 参加者から参加しての感想や困りごと等を聞いて、随時対応している。 オ 通いの場があることで高齢者の心身機能維持につながっている。しかし、参加者の高齢化により体力測定の評価項目やプログラム内容、通いの場までの送迎等々検討・改善が必要であり、委託業者やグループ内で話し合い、見直ししながら次年度の事業を実施している。
		イ 毎年度、経年的な評価や分析等を行っている		○	○	2点	
		ウ 行政以外の外部の関係者の意見を取り入れている		○	×	1点	
		エ 通いの場の参加者の意見を取り入れている		○	/	1点	
		オ 分析結果等をサービス内容の充実等に活用している		○	○	2点	
5	地域におけるリハビリテーションの推進に向けた具体的な取組を行っているか。 ※ウに該当する場合はイに該当していることが望ましい	ア 国が示すリハビリテーションサービス提供体制に関する指標を現状把握や施策の検討に活用し、リハビリテーションに関する目標を市町村介護保険事業計画に設定している	2024年度実施 (予定を含む) の状況を評価	×	×	0点	イ 地域包括支援センターが開催している事例検討会（田子町多職種合同ケアカンファレンス）開催時は、リハビリテーション専門職も参加している。また、地域の介護予防活動支援として、町のリハビリテーション専門職を派遣できる体制を整えている。 ウ リハビリテーション専門職や医療職が、多職種合同ケアカンファレンスに参加したり、地域ケア会議の委員に構成されている。 エ 地域からのリハビリテーション専門職の講師依頼が減少していることから、広報等で再周知を実施予定である。
		イ 郡市区医師会等の関係団体と連携して協議の場を設置し、介護予防の場や介護事業所にリハビリテーション専門職等が関与する仕組みを設けている		○	○	2点	
		ウ リハビリテーション専門職を含む医療専門職を介護予防の場や地域ケア会議等に安定的に派遣するための具体的な内容を議論するなど、イの協議の場を活用している		○	○	2点	
		エ 毎年度、取組内容の成果を分析し、改善・見直し等を行い、公表している		○	○	2点	

指 標		時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄	
6	<p>生活支援コーディネーターの活動等により、地域のニーズを踏まえた介護予防・生活支援の体制が確保されているか。</p> <p>※ア→イ・ウ→エ→オの順で該当していることが望ましい</p>	2024年度実施（予定を含む）の状況を評価	ア 地域における介護予防・生活支援サービス等の提供状況、地域資源、利用者数の推移、心身及び生活状況の傾向、高齢者の地域の担い手としての参画状況等を把握し、データとして整理している	○	○	1点	<p>ア 介護予防生活支援サービス事業（訪問型サービス、通所型サービス）や配食サービス事業の実績により利用者数の推移等をデータとして整理している。</p> <p>イ 田子町包括支援センター運営協議会で、アの実績を報告している。</p> <p>ウ 協議体では、生活支援コーディネーターとともに地域の課題についてニーズ調査やあらいだしを行い、各専門部会で課題解決に向けて検討及び協議を行い、事業化後は評価を行うものである。</p> <p>エ 高齢者社計画・介護保険事業計画により関係者に周知している。</p> <p>オ 田子町包括支援センター運営協議会や、協議体の定期的な会議において、アドバイザーからの助言も含め、委員全員で共有している。</p>
			イ アで整理したデータを、地域住民や関係団体等に提供・説明している	○	○	2点	
			ウ アで整理したデータを踏まえ、生活支援コーディネーターとともに、協議体を活用しながら、地域の課題を分析・評価している	○	○	2点	
			エ ウの分析・評価を踏まえ、市町村として、介護予防・生活支援サービスの推進方策を策定し、関係者に周知している	○	○	2点	
			オ エで策定した市町村としての推進方策を定期的に見直し、関係者に周知する仕組みがある	○	○	2点	
7	<p>多様なサービスの活用の推進に向け、実施状況の調査・分析・評価を行っているか。</p> <p>※ア・イ→ウ→エ→オ→カの順で該当していることが望ましい</p>	2024年度実施（予定を含む）の状況を評価	ア 介護予防・日常生活支援総合事業のサービスの実施状況、地域資源、利用者数の推移、心身及び生活状況の傾向のほか、現状では対応が困難な地域の困り事等を把握し、データとして整理している	○	○	1点	<p>ア整理しているデータ内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合事業サービスの実施状況及びサービスごとの利用者数の推移 地域包括支援センターへの相談件数・相談内容 生活支援コーディネーターにかかる協議体における委員からの意見等 <p>イ 生活支援コーディネーター協議体からの意見や配食サービス利用者へのアンケート調査、地域のサロンリーダーからの意見等を確認し、サービスに取り入れるようにしている。</p> <p>ウ バスを利用できない町民の買い物・病院受診・通いの場まで等の移動手段の確保や、高齢者等の見守り体制、食事の準備等が難しい高齢者の栄養の問題、地域の通い場の担い手（サロンリーダー）の確保等の地域の問題を把握し関係者で共有している。</p> <p>エ 地域の課題については、生活支援コーディネーターにかかる協議体や、地域包括支援センター運営協議会、介護保険運営協議会、田子町介護保険連絡協議会（ケアマネジャー参加）で情報共有をし関係者にも周知している。</p> <p>カ 田子町包括支援センター運営協議会や、協議体の定期的な会議において、アドバイザーからの助言も含め、委員全員で情報共有し、定期的に改善・見直しを行っている。</p>
			イ 介護予防・日常生活支援総合事業の利用者等の意見を取り入れる仕組みを整えている	○	△	1点	
			ウ アで整理したデータ又はイの意見を踏まえ、多様なサービスの推進に向け、地域の課題を分析・評価・共有している	○	○	1点	
			エ ウの分析・評価を踏まえ、多様なサービスの推進に向け、市町村としての推進方策を策定し、関係者に周知している	○	○	1点	
			オ エの推進方策の策定にあたり、多様なサービスの対象者モデルの提示や、第一号介護予防支援事業における目標指向型のケアマネジメントの取組を評価する仕組みを整えている	×	△	0点	
			カ ア～オのプロセスを踏まえ、エで策定した市町村としての推進方策を定期的に改善・見直し等を行う仕組みがある	×	×	0点	

指 標		時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄
(ii)活動指標群(配点48点)						
1	高齢者人口当たりの地域包括支援センターに配置される3職種の人数	ア 上位7割				
		イ 上位5割				
		ウ 上位3割				
		エ 上位1割				
2	地域包括支援センター事業評価の達成状況	① 上位7割				
		② 上位5割				
		③ 上位3割				
		④ 上位1割				
	ア 家族介護者支援を含む総合相談支援・権利擁護業務	① 上位7割				
		② 上位5割				
		③ 上位3割				
		④ 上位1割				
	イ 介護予防の推進・包括的・継続的ケアマネジメント支援業務・事業間連携に関する業務	① 上位7割				
		② 上位5割				
		③ 上位3割				
		④ 上位1割				
ウ 地域ケア会議に関する業務	① 上位7割					
	② 上位5割					
	③ 上位3割					
	④ 上位1割					
3	地域ケア会議における個別事例の検討割合（個別事例の検討件数／受給者数）	ア 上位7割				個別事例の述べ件数を記載。※単位の記載は不要
		イ 上位5割				
		ウ 上位3割				
		エ 上位1割				
						4

指 標			時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄	
4	通いの場への65歳以上高齢者の参加率	ア 週一回以上の通いの場への参加率	2023年度実績 を評価					
								① 上位7割
								② 上位5割
								③ 上位3割
	イ 週一回以上の通いの場への参加率の変化率	④ 上位1割						
		① 上位7割						
		② 上位5割						
		③ 上位3割						
④ 上位1割								
	5	高齢者のポイント事業への参加率	ア 上位7割	2023年度実績 を評価			ポイント事業参加者数（実人数）を記載。※単位の記載は不要 125	
		イ 上位5割						
		ウ 上位3割						
エ 上位1割								
6	通いの場等において心身・認知機能を維持・改善した者の割合	ア 上位7割	2023年度実績 を評価			[努力支援交付金Ⅰ(ii)6計算用]シートから自動転記。※単位の記載は不要 85.3%		
	※「努力支援交付金Ⅰ(ii)6計算用」シートを使用して計算						イ 上位5割	
	ウ 上位3割							
	エ 上位1割							

指 標			時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄					
7	高齢者人口当たりの生活支援コーディネーター数	ア 上位7割	2023年度実績を評価				生活支援コーディネーター数（実人数）を記載。※単位の記載は不要					
		イ 上位5割										
		ウ 上位3割										
		エ 上位1割										
							1					
8	生活支援コーディネーターの地域ケア会議への参加割合	ア 上位7割	2023年度実績を評価									
		イ 上位5割										
		ウ 上位3割										
		エ 上位1割										
9	総合事業における多様なサービスの実施状況	ア 第一号訪問事業及び第一号通所事業実施事業所・団体数に占める多様なサービス実施事業所・団体数の割合	① 上位7割	2023年度実績を評価				事業所・団体数を記載。※単位の記載は不要、把握していない場合は記載不要。				
			② 上位5割									
			③ 上位3割									
			④ 上位1割									
		イ 第一号訪問事業及び第一号通所事業の実利用者数に占める多様なサービスに係る実利用者数の割合	① 上位7割									実利用者数を記載。※単位の記載は不要、把握していない場合は記載不要。
			② 上位5割									
			③ 上位3割									
			④ 上位1割									
		ウ 第一号訪問事業及び第一号通所事業の事業費に占める多様なサービスに係る事業費の割合	① 上位7割									
			② 上位5割									
			③ 上位3割									
			④ 上位1割									
									0			
							0					
エ 人口1万人未満の市町村であって、生活支援体制整備事業を活用し、インフォーマルサービス（住民主体の支え合い活動を含む。）を実施している場合			2023年度実績を評価			×	0点					

指 標	時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄
-----	----	-----	-------	----	-----

目標Ⅱ 認知症総合支援を推進する(配点100点)

24点

(i)体制・取組指標群(配点64点)

指 標	時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄	
1 認知症サポーター等を活用した地域支援体制の構築及び社会参加支援を行っているか。	2024年度実施(予定を含む)の状況を評価	ア 認知症の人の声を聞く機会(本人ミーティング、活動場所への訪問など)を設けている	○	○	5点	ア 認知症カフェ(月1回)や、日々の対応を通して認知症本人の声を聞くようにしている。 イ、田子町成年後見制度利用支援事業実施要綱(資料参照)
		イ 成年後見制度利用支援事業に関し、対象を市町村長申立や生活保護受給者に限定しない要綱等を整備している	○	○	5点	
		ウ 認知症サポーター等による支援チーム等の活動グループ(チームオレンジなど)を設置している	×	×	0点	
		エ 認知症の人やその家族の支援ニーズに合った具体的な支援につながるよう、ウによる活動グループを含む地域の担い手とのマッチングを行っている	×	×	0点	
		オ 認知症の人が希望に応じて農業、商品の製造・販売、食堂の運営、地域活動やマルシェの開催等に参画できるよう、支援している	×	×	0点	
2 認知症状のある人に対して、専門医療機関との連携により、早期診断・早期対応に繋げるための体制を構築しているか。 ※エに該当する場合はアからウまでのいずれかに該当していることが望ましい	2024年度実施(予定を含む)の状況を評価	ア 認知症に関わる医療機関や認知症初期集中支援チームの周知を行っている	○	○	4点	ア 民生委員や認知症の相談に来た家族に対して、情報提供をしている。 イ 支援の必要な認知症の高齢者については、認知症疾患医療センターやかかりつけ医に対して、現在の生活状況や認知症状による困りごと等の情報提供を行ったり、早期受診の対応を依頼するなど連携した取り組みを行っている。 エ 地域包括支援センターが中心となり、認知症の町民の相談窓口となっている。寄せられた相談をもとに、本人・家族・専門職・地域住民・かかりつけ医等と状況確認や対応を実施しながら、専門病院にもつなげ早期受診につながるような体制を構築している。
		イ 認知症に関わる医療機関と連携した取組を行っている	○	○	5点	
		ウ 情報連携ツール等を活用して、関係者間で連携ルールを策定している	×	×	0点	
		エ アからウまでを踏まえ、医療・介護専門職による早期対応や早期診断に繋げる体制づくりを構築した上で、運用している	○	○	5点	
3 難聴高齢者の早期発見・早期介入に係る取組を行っているか。 ※ア→イ→ウ→エの順で該当していることが望ましい	2024年度実施(予定を含む)の状況を評価	ア 普及啓発の取組を行っているか	×	/	0点	
		イ 早期発見の取組を行っているか	×		0点	
		ウ 受診状況の把握と未受診者への再度の受診勧奨を行っているか	×		0点	
		エ 受診勧奨者のうち50%以上の者が受診しているか	×		0点	

指 標		時点	回答欄	昨年度結 果	得点	記載欄
(ii)活動指標群(配点36点)						
1	高齢者人口当たりの認知症サポーター数	ア 上位7割				
		イ 上位5割				
		ウ 上位3割				
		エ 上位1割				
2	高齢者人口当たりの認知症サポーター ステップアップ講座修了者数	ア 上位7割				
		イ 上位5割				
		ウ 上位3割				
		エ 上位1割				
3	認知症地域支援推進員が行っている業 務の状況	ア 上位7割				
		イ 上位5割				
		ウ 上位3割				
		エ 上位1割				

指 標	時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄
-----	----	-----	-------	----	-----

目標Ⅲ 在宅医療・在宅介護連携の体制を構築する(配点100点)

48点

(i)体制・取組指標群(配点68点)

指 標	時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄		
<p>地域の医療・介護関係者等が参画する会議において、市町村が所持するデータ等に基づき、在宅医療・介護連携に関する課題を検討し、対応策が具体化されているか。</p> <p>※エに該当する場合、ア及びウに該当していることが望ましい</p>	<p>2024年度実施(予定を含む)の状況を評価</p>	ア 今後のニーズを踏まえ、①日常の療養支援、②入退院支援、③急変時の対応、④看取りの4つの場面ごとに、在宅医療と介護の提供体制の目指すべき姿を設定している	○	○	5点		
		イ 在宅医療と介護の提供体制の目指すべき姿を介護保険事業計画に記載している	○	○	6点		
		ウ 地域の人口推計を踏まえた今後のニーズや医療・介護資源、社会資源や利用者の情報、住民の意向等を定量的な情報も含めて把握している	×	×	0点		
		エ アとウの差の確認等により抽出された課題を踏まえ、地域の特性を踏まえた目標の設定、具体的な対応策を立案している	×	×	0点		
		オ 評価指標等に基づき事業の検証や必要に応じた見直しを行う仕組みを設けている	×	×	0点		
<p>在宅医療と介護の連携の強化・推進に向け、相談支援、研修会の開催といった具体的な取組を行っているか。</p> <p>※ア→イ→ウ→エの順で該当していることが望ましい。</p>	<p>2024年度実施(予定を含む)の状況を評価</p>	ア 在宅医療と介護の連携の強化・推進に向け、医療・介護関係者のニーズを把握している	○	○	5点	<p>ア 地域連携室と介護支援専門員がお互いの役割の明確化と連携強化、専門外(認知症)の一次相談対応してくれる医師の不足、町内で看取りができる医療機関の不足</p> <p>イ ①地域包括支援センターが窓口となり、在宅療養や認知症介護など様々な関係機関からの相談支援を行っている。②相談内容、件数については年度毎に取りまとめ、内容については包括支援センター運営協議会や介護保険連絡協議会等で医療・介護関係者間で問題を共有している。③多職種合同ケアカンファレンスの実施や連携中枢都市圏事業で看取りをテーマとした研修開催。</p> <p>ウ 医療介護連携に関しては、介護支援専門員から研修内容のニーズはあまり聞かれず、現在は連携中枢都市圏での合同研修会が主である。町内の医療従事者は介護保険の知識が不足している者も多いが、業務の都合で時間がとれず、様々な研修の参加率が低い。</p>	
		イ 医療・介護関係者のニーズを踏まえ、次のような取組を実施している。	① 医療・介護関係者に対する相談窓口の設置	○	○		2点
			② 定期的な相談内容等の取りまとめ、その結果の医療・介護関係者間での共有	○	○		2点
			③ 多職種を対象とした参加型の研修会の実施	○	○		2点
		ウ 取組の実施状況を踏まえ、課題分析等を行っている	○	○	5点		
エ 毎年度、課題分析や医療・介護関係者の双方の意見等を踏まえ、必要に応じて取組の改善・見直し等を行っている	×	×	0点				

指 標		時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄
3	<p>患者・利用者の状態の変化等に応じて、医療・介護関係者間で速やかな情報共有が実施できるよう、具体的な取組を行っているか。</p> <p>※ア→イ→ウ→エの順で該当していることが望ましい。</p>	ア 医療・介護関係者の情報共有の実施状況を把握している	○	○	5点	<p>ア・イ 町内であれば、必要時医療機関に出向いたり、入退院時情報共有ツールや町内の医療機関との連絡シートを運用。活用状況についてアンケートや聞き取りで確認しており、今年度も実施予定。</p> <p>ウ・エ 認知症情報連携ツール等含め、医療機関や介護支援専門員から意見を聴き見直し及び必要時改善予定</p>
		イ 実施状況等を踏まえ、在宅での看取りや入退院時等に活用できるような医療・介護関係者の情報共有ツールの作成等情報共有円滑化のための取組を実施している	○	○	6点	
		ウ 取組の実施状況を踏まえ、課題分析等を行っている	○	○	5点	
		エ 毎年度、課題分析や医療・介護関係者の双方の意見等を踏まえ、必要に応じて情報共有ツール等の改善・見直し等を行っている	○	○	5点	
		2024年度実施 (予定を含む) の状況を評価				

指 標		時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄
-----	--	----	-----	-------	----	-----

(ii)活動指標群(配点32点)

1	入退院支援の実施状況	ア 入院時情報連携加算算定者数割合(要介護認定者数における割合)	① 上位7割	2023年度実績を評価		
			② 上位5割			
			③ 上位3割			
			④ 上位1割			
	イ 退院・退所加算算定者数割合(要介護認定者数における割合)	① 上位7割				
		② 上位5割				
		③ 上位3割				
		④ 上位1割				
2	人生の最終段階における支援の実施状況	ア 在宅ターミナルケアを受けた患者数割合(管内死亡者数における割合)	① 上位7割	2022年度実績を評価		
			② 上位5割			
			③ 上位3割			
			④ 上位1割			
	イ 看取り加算算定者数割合(管内死亡者数における割合)	① 上位7割				
		② 上位5割				
		③ 上位3割				
		④ 上位1割				

指標	時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄
----	----	-----	-------	----	-----

目標Ⅳ 高齢者がその状況に応じて可能な限り自立した日常生活を営む(配点100点)

成果指標群

指標	時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄	
1 軽度【要介護1・2】 (平均要介護度の変化Ⅰ) 短期的な平均要介護度の変化率の状況 はどのようになっているか。	ア 変化率の状況	① 全保険者の上位7割	(ア) 2023年1月→2024年1月の変化率			
		② 全保険者の上位5割				
		③ 全保険者の上位3割				
		④ 全保険者の上位1割				
	イ 変化率の差	① 全保険者の上位7割				(イ) 2023年1月→2024年1月と、2022年1月→2023年1月の変化率の差
		② 全保険者の上位5割				
		③ 全保険者の上位3割				
		④ 全保険者の上位1割				
2 軽度【要介護1・2】 (平均要介護度の変化Ⅱ) 長期的な平均要介護度の変化率の状況 はどのようになっているか。	ア 全保険者の上位7割	2020年1月→2024年1月の変化率				
	イ 全保険者の上位5割					
	ウ 全保険者の上位3割					
	エ 全保険者の上位1割					

指 標			時点	回答欄	昨年度結果	得点	記載欄	
3	中重度【要介護3～5】 (平均要介護度の変化Ⅰ) 短期的な平均要介護度の変化率の状況 はどのようになっているか。	ア 変化率の状況	① 全保険者の上位7割					
			② 全保険者の上位5割					
			③ 全保険者の上位3割					
			④ 全保険者の上位1割					
		イ 変化率の差	① 全保険者の上位7割					(ア) 2023年1月→2024年1月の変化率
			② 全保険者の上位5割					(イ) 2023年1月→2024年1月と、2022年1月→2023年1月の変化率の差
			③ 全保険者の上位3割					
			④ 全保険者の上位1割					
4	中重度【要介護3～5】 (平均要介護度の変化Ⅱ) 長期的な平均要介護度の変化率の状況 はどのようになっているか。	ア 全保険者の上位7割	2020年1月→2024年1月の変化率					
		イ 全保険者の上位5割						
		ウ 全保険者の上位3割						
		エ 全保険者の上位1割						
5	健康寿命延伸の実現状況 要介護2以上の認定率、認定率の変化率の状況はどのようになっているか。	ア 認定率	① 全保険者の上位7割					
			② 全保険者の上位5割					
			③ 全保険者の上位3割					
			④ 全保険者の上位1割					
		イ 認定率の変化率	① 全保険者の上位7割					(ア) 2024年1月の認定率
			② 全保険者の上位5割					(イ) 2023年1月と2024年1月の変化率
			③ 全保険者の上位3割					
			④ 全保険者の上位1割					